府立堺上高等学校
校長　酒井　保典

平成 31 年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

「生徒たちが『入学してよかった』と思える学校、保護者に『入学させてよかった』と思っていただける学校、
卒業生がすばらしい『母校』と思える学校、地域の方に『一緒にがんばろう』と思っていただける学校」をめざす。

1　生徒の自己実現に向けた教育活動により、夢と志を持った生徒を育成する。　（目標あるキャリア教育）
2　人権尊重の精神に基づいて、モラルやマナー面での社会的な人間力を育てる。　（人権教育をふまえた社会的実力の育成）
3　地域や保護者等との信頼に基づいた連携関係を構築して教育活動を展開する。　（社会に開かれた学校づくり）

２　中期的目標

１　確かな学力の定着

(1) 少人数授業の展開やICTを活用した授業の拡充等により魅力ある授業づくりを推進し、学びの意欲を高め基礎学力の定着を図る。
(2)「SK勉強会」などの授業研修を実施することで、校内での研究授業等を充実させ、経験の多少によらず教員力・授業力の向上を図る。
＊生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」（平成30年度55.4%）に関して2021年度には65%以上をめざす。

２　多様な進路の実現

(1) 多様な進路を実現するための進路支援ｼｽﾃﾑを確立し、早期に進路目標を意識させる指導を行う。
＊卒業後に自己実現のための準備とするもの以外の進路未決定率（平成30年度　%）に関して、2021年度には2%をめざす。
＊大学進学を希望する生徒に力をつけて、2021年度には難関私立大学・国公立大学にﾁｬﾚﾝｼﾞする生徒５名以上を育てることをめざす。

３　社会に貢献する人材の育成

(1) 基本的生活習慣の確立と規範意識向上に向けた取組みを推進するとともに、個々の生徒への支援体制を強化する。
ア 社会的なモラルやマナーを遵守することの大切さを理解させて、社会的な実力を育成する。
イ ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰ（SC）やｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ（SSW）を活用した教育相談体制を確立させ、個々の生徒への支援体制を充実させる。
＊生徒向け学校教育自己診断における生活規律等基本的習慣の指導確立項目（平成30年度61.4%）に関して、2021年度まで70%以上をめざす。
＊生徒向け学校教育自己診断における教育相談に関する項目における満足度（平成30年度53.5%）に関して、2021年度には60%をめざす。
(2) 特別活動を充実させ生徒の参加を促進することで、生徒の自己肯定感を醸成するとともに、学校への帰属意識を高める。
ア 学校行事や部活動において、生徒の自主性を高めるとともに、集団の中で他と調和しながら行動する能力を育成する。
イ「堺上高杯」等において地域や小中学校とのさらなる連携を図ることを通して、生徒に自尊心とボランティア精神を育む。
＊生徒向け学校教育自己診断における行事に対する満足度（平成30年度66.3%）に関して、2021年度には75%以上をめざす。
＊生徒の入部率を（平成30年度36.7%）を毎年３ﾎﾟｲﾝﾄ引き上げ、2021年度には45%以上をめざす。

４　校内運営体制の改善と人材の育成

(1)　組織業務の見直しを行い、必要な統合を進め、精選と簡素化、業務量の検討を行なうことで体制の強化と労働時間の適正化を図る。
(2)「SK教員絆ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」に基づき、本校独自の「SKﾐｰﾃｨﾝｸﾞ」「SK勉強会」等を開催し、教員力育成事業を推進することにより育成ｼｽﾃﾑを構築する。

５　広報活動の充実と保護者や地域との連携の推進

(1) 地域の中学校等への広報の充実に努め、更なる連携を推進する。
＊知名度を高め魅力を発信すべく「堺上高杯」への参加校及び中学生数（平成30年度50校807名）に関して、新規の参加校開拓をしながら2021年度まで同水準の数値を維持することをめざす。
(2) 保護者が積極的にPTA活動に参加できるよう、PTA活動内容の精査を行いさらなる充実を図る。また、保護者向けﾒｰﾙ配信の内容を充実させ、学校の教育活動への理解を深める。
＊保護者向けﾒｰﾙの登録者（平成30年度475名57.4%）に関して2021年度には70%以上の登録をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［平成　年　月実施分］	学校運営協議会からの意見

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	
１　確かな学力の定着	**(1)学びへの意欲を高める**	(1)・生徒の実態をふまえたうえで、効果的な場面でのＩＣＴ機器の活用、対話的な視点に基づく学習活動などの導入を図ることを通して、生徒意欲・興味・関心を引き出す授業作りに取り組む。	(1)・生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」を60%以上に。(H30は55.4%) ・生徒向け学校教育自己診断でのPC、PJの活用度を75%以上に。(H30は73.6 %)	
	(2)研究授業等の拡充	(2)・「SK教員絆ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」による「SK勉強会」を発展的に実施し、授業見学や研究協議を充実させ、課題を共有化することにより、同僚性を活かした授業改善を図る。	(2)・「SK勉強会」の内容検証に伴う研究授業、協議を年に１回以上行う。 ・授業見学週間に参加する教員数を延べ50名以上に。(H30は35名) ・教員向け学校教育自己診断「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」を75%以上に。(H30は74%)	

府立堺上高等学校

2 多様な進路の実現	(1)早期に進路目標を意識させる指導の充実	(1)・外部講師等による進路講演会の実施や就職支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀの活用、内定者指導、進学講習など、個々の生徒の希望に応じたきめ細かな進路指導を行う。 ・医療看護系や４年制大学進学希望者向けには個々の進路に応じた個別講習を実施する。 ・H30 から1回となった大学見学会について、生徒の進路実態により即した内容への刷新を図り、参加者増に向けた広報の工夫に努める。 ・漢検・英検・ﾊﾟｿｺﾝ検定の受検促進を図る。	(1)・難関私立大学・国公立大学にﾁｬﾚﾝｼﾞする生徒数について昨年より増をめざす。(H30 は３名) ・進学講習参加者を75名以上に。(H30は72名) ・大学見学会参加者数25名以上をめざす。(H30は19名) ・H30漢検52名、英検35名、ﾊﾟｿｺﾝ検定28名の受検者数について、昨年より増をめざす。	
3 社会に貢献する人材の育成	(1) **ア基本的生活習慣の確立と規範意識の向上** **イ個々への支援体制の強化** (2) **ア特別活動の活性化** **イ 部活動等における地域や小中学校との連携**	(1) ア・自転車通学者が非常に多い状況を鑑み、大阪府の自転車条例をふまえ、自転車事故防止やﾏﾅｰ向上のための講習会を、警察等と連携して実施するとともに、駐輪指導をはじめとする自転車関係の指導を強化する。 ・遅刻回数による段階指導や遅刻防止週間、入室許可書等これまでの指導ｼｽﾃﾑを継続しつつ、個々のケースの原因の解決にあたることにより、遅刻数の減少に取り組む。 ・服育の観点を導入するなどして、服装等身だしなみの指導の強化を図る。 イ・SCとSSWを活用した教育相談体制を充実させ、個々のｹｰｽに迅速に対応できる能動的な組織の確立に努め、外部機関との適切な連携を図る。 (2) ア・体育大会や文化祭等の学校行事に工夫を加えて、生徒の学校生活の充実を図る。 ・中学生向け学校説明会においても生徒会役員等の生徒が活躍する場を設け、生徒自身のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ力を高めるとともに、自己肯定感を醸成する。 ・入学後の体験入部の実施方法に工夫を加え、１年次の加入率を上げる。 イ・「堺上高杯」を組織的に充実させ、地域の学校との連携を深める。 ・地域や小学校のイベントへの参加要請があれば、積極的に参加して、地域の方々と交流を図り、学校を理解していただく。	(1) ア・自転車事故報告件数について、０件をめざす。(H30は現時点で１件) ・遅刻統計の総数で昨年度 (現時点6727回)の10ﾎﾟｲﾝﾄ減をめざす。 ・生徒向け学校教育自己診断での生活規律等基本的習慣の指導確立を65％以上に。(H30は61.4％) イ・生徒向け学校教育自己診断での担任以外にも相談できる先生がいるの肯定度を55％以上に (H30は53.5％) (2) ア・生徒向け学校教育自己診断において、行事満足度を70％に。(H30は66.3％) ・学校説明会時の中学生対象のｱﾝｹｰﾄで、生徒の活躍に関する項目の肯定度の高い回答率を80％に。(H30は74.6%) ・１年次の加入率50％以上、全体の加入率45％以上をめざす。 (H29 はそれぞれ44.5％、42.4％) イ・第４回「堺上高杯」を計画的かつ組織的に実施し、新規参加校を開拓し同水準の維持をめざす。(H30現時点では延べ46校807人) ・要請があれば大会等と重ならないかぎり積極的に参加する。(H30は2回の要請で2回とも参加した)	
4 校内運営体制の改善と人材の育成	(1)分掌や各種委員会等の業務の見直し (2)教員の教育力育成	(1)・業務内容を整理し、分掌統合を行なうなど、精選と簡素化、業務量の検討を通して組織体制の強化と労働時間の適正化を図る。 ・将来構想委員会をさらに活性化させ、新たな取組提言や提案を促し、その具現化に取り組む。 (2)・「SK教員絆ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」により「SK勉強会」等を実施して授業力の向上を図るとともに、職員研修や独自のミーティングを実施して分掌業務や担任業務等などに関する教員の教育力の向上を図る。 ・人権研修等の教職員研修の実施に際し、外部講師を積極的に招聘するなどして、学校の実情に即した内容となるよう創意工夫を行う。	(1)・教員向け学校教育自己診断での各分掌等の有機的な機能性を問う項目で65％をめざす。(H30は58％) ・新たな取組みを１件以上具現化する。 (2)・教員向け学校教育自己診断での計画的な研修計画を問う項目で 85％以上を維持 (H30は88％) ・教員向け学校教育自己診断での校内研修の教育実践有効性を問う項目で75％をめざす。(H29は70％)	

府立堺上高等学校

5 広報活動の充実と保護者や地域との連携の推進	**(1) 広報の充実と地域他校種とのさらなる連携の推進**	(1)・全出身中学校に対し広報に努めるとともに３月に新入生の状況把握を行い個別の支援の一助とする。 ・本校独自の中高連絡会を実施し、生徒状況等について共有化を図る。 ・新着情報、フォトギャラリー、校長ブログ等HPの内容の充実させることで、ﾀｲﾑﾘｰに情報を発信する。 ・地域の小学校等と連携した取り組み（イベント等への参加など）の要請があれば、積極的に参加して交流を図る。	(1)・全出身中学校と連絡を取り、生徒の状況把握を行う。 ・中高連絡会参加10校以上をめざす。（H30は７校） ・本校HPのアクセス数年間20,000件以上をめざす。（H30年は災害があったので１月～H31年１月、約45,000件） ・校長ブログを70回以上更新する。 ・「近隣の学校などとの校種間連携の機会を設け、教育活動全般に活かしている。」の肯定回答値70%をめざす。（H30は66%）	
	(2) ＰＴＡ活動のさらなる充実	(2)・PTAの活動についての広報を工夫し、PTAの一日研修や教養講座への参加促進を図ることで、保護者の学校への理解を深めていただく。 ・保護者向けﾒｰﾙ配信「365日いつでもﾈｯﾄ」の登録者を増やすとともに発信内容の充実を図る。	(2)・PTA主催の研修については定員に対し、70%以上の参加率をめざす。（H30は総数70/110人、63.6%） ・「365日いつでもﾈｯﾄ」登録率60%以上をめざす。（H30は57.4%） ・保護者向け学校教育自己診断における「365日いつでもﾈｯﾄ」に対する肯定回答数を５ﾎﾟｲﾝﾄ増とする。（H30は67%）	